

SADA

SAKAI DESIGN ASSOCIATION

堺デザイン協会

No. 13

平成4年7月31日



堺鍛冶の看板

「我が国デザイン業の現状」報告

通商産業では昭和54年度から3年毎に「特定サービス業実態調査」を行なってきましたが、平成3年10月、平成2年度の概況（平成2年12月1日現在調査）が通商産業大臣官房調査統計部サービス産業統計調査室から発表されましたので、その内からデザイン業につき調査結果をお知らせいたします。すでにSaDAニュースでは、第6号で前回昭和60年度の調査結果を報告いたしました。前回と比較してお読みいただきますとデザイン業界の動向がよくわかります。

なお調査結果の詳細は「平成2年度特定サービス産業実態調査報告書・デザイン業編」として、通産統計協会から刊行されています。

（注）この調査は、デザイン業務を行ない、市（特別区を含む）の地域に所在する事務所であって、通商産業大臣が指定したものを対象とします。

（注）この調査で、デザイン業務とは、工業的、商業的製品またはその他の物品、装飾に関し、用途、材質、製作法、形状、色彩、模様、配置、照明などについて製造を意図して図上に設計、表現などを行なう業務をいいます。

平成2年のデザイン業
 事業所数 2933 事業所
 年間売上高 1779 億円
 従業者数 1万5196人

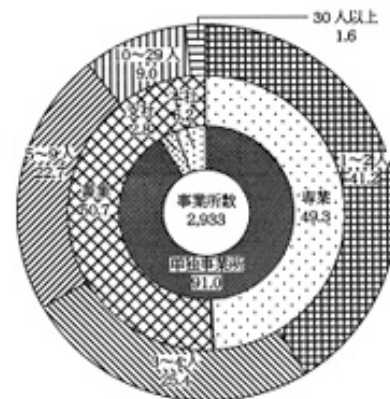
1.個人経営の単独事業所が4割を占める

デザイン業務を営む2933事業所について規模別に見ますと、経営組織別では、個人経営が1233事業所（構成比42.0%）と株式会社の1069事業所（同36.4%）を上回っています。本支社別では、単独事業所が2670事業所（同91.0%）と圧倒的な割合を占め、従業者規模別では1～2人が1208事務所（同41.2%）、3～4人が746事業所（同25.4%）とこの2つの規模で全体の66.6%を占めています。

また、専・兼業割合では、半数近くの1445事務所（同49.3%）がデザイン業務専業となっています。

これらからデザイン業は、従業者の少ない個人経営の単独事業所が多く、専業比率が比較的高いことが窺えます（図1）。

図1 従業者規模別、本・支社別、専・兼業別事業所数



2.年間売上高、5年間で1.6倍の伸び

デザイン業の年間売上高は1779億円で、前回調査（昭和60年）に比べ60.9%の増加、1事業所当たり年間売上高は、6065万円（前回は33.6%の増加）、従業者1人当たり年間売上高は、1171万円（同44.4%の増加）、契約一件当たり売上高は50万円となっています。

3.業務種類別ではグラフィックデザインが全体の4割弱の売り上げ

年間売上高を業務種類別にみますと、グラフィックデザインが700億円で全体の4割弱を占めています。次いで、インテリアデザインが259億（構成比14.6%）、その他のデザイン（建設、都市計画造成等）の200億円（同11.3%）の順となっています。これを前回調査と比較してみると、働きやすいオフィス環境に対する関心の高まり、各種店舗等のデザイン重視、また、一般住宅におけるインテリアのトータルコーデ

表1 業務種類別年間売上高（単位：百万円、%）

区 分	平成2年		
	前 回 比	構成 比	
計	177,901	160.9	100.0
インダストリアルデザイン	14,762	208.6	8.3
クラフトデザイン	788	173.6	0.4
ジュエリーデザイン	818		0.5
パッケージデザイン	9,362	103.3	5.3
グラフィックデザイン	70,013	101.3	39.4
サインデザイン	5,489		3.1
ディスプレイデザイン	16,614	339.4	9.3
インテリアデザイン	25,937	348.6	14.6
テキスタイルデザイン	7,034	271.2	4.0
ファッションデザイン	1,895	155.2	1.1
その他のデザイン	20,016	348.5	11.3
デザインコンサルタント	5,173	172.1	2.9

インテリア志向の高まり等を反映して、インテリアデザイン、ディスプレイデザインなどのスペースデザインの分野で3倍を越える増加となっています(表1)。

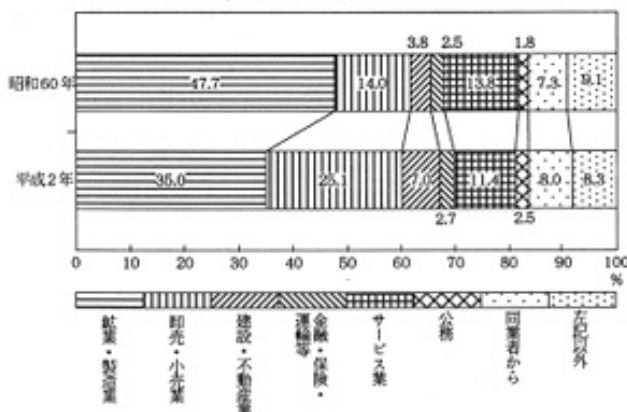
業務種類別にデザイナー1人当たりの年間売上高をみますと、ディスプレイデザインが3032万円でもっとも大きく、サインデザインの2064万円、その他のデザインの1858万円、デザインコンサルタントの1854万円の順となっています。また、構成比の最も大きいグラフィックデザインは、1259万円となっています。

4. 契約先産業別では、建設・不動産業、卸売・小売業、飲食店で拡大

年間売上高を契約先産業別にみますと、鉱業・製造業が622億円(構成比35.0%)で最も多く、次いで、卸売・小売業、飲食店の446億円(同25.1%)、サービス業の204億円(同11.4%)の順となっています。

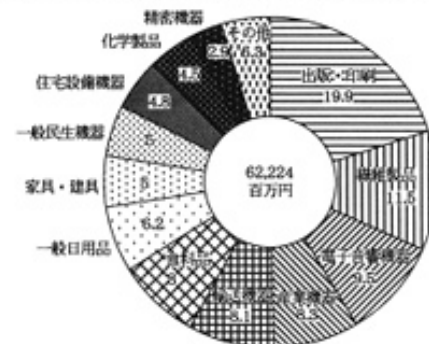
これを前回調査と比較してみますと、売上高が大幅に拡大したインテリア、ディスプレイデザイン等スペースデザイン分野との関係が深い建設・不動産業、卸売・小売業、飲食店で約3倍の規模となっています。一方、鉱業・製造業はこの5年間でわずか18%増にとどまっております、構成比は前回の47.7%から35.0%へと12.7ポイント縮小しています(図2)。

図2 契約先産業別年間売上高構成比の推移



また、全体の3割強の割合を占める鉱業・製造業について業種別に見ますと、出版・印刷が124億円(構成比19.9%)と最も大きく、次いで、繊維製品72億円(同11.5%)、電子音響機器59億円(同9.5%)の順となっています(図3)。

図3 契約先産業別年間売上高の推移(鉱業・製造業)



5. 従業者女性デザイナーの伸びが顕著

デザイン業務に従事する従業者総数は1万5196人で、これを男女別にみますと男性が9707人(構成比63.9%)、女性が5489人(同36.1%)となっています。うち、デザイナーは1万2074人で、男性が8106人(前回比21.4%の増加)、女性が3968人(同46.0%の増加)となっており、女性デザイナーの伸びが目立っています。なお、1事業所当たり従業者数は5人、デザイナー数は4人となっています。

デザイナーを職種別にみますと、グラフィックデザイナーが5560人(構成比46.0%)と最も多く、次いで、インテリアデザイナーの1542人(同12.8%)、インダストリアルデザイナーの1108人(同9.2%)の順となっています(表2)。

表2 職種別、男女別従業者数(単位:人、%)

区分	平成2年	男		女					
		構成比	前回比	構成比	前回比				
計	15,196	100.0	111.4	9,707	100.0	106.9	5,489	100.0	120.4
管理部門	1,746	11.5	84.0	869	9.0	69.0	877	16.0	107.0
その他	1,376	9.1	63.4	732	7.5	63.9	644	11.7	63.0
デザイナー計	12,074	79.5	128.6	8,106	83.5	121.4	3,968	72.3	146.0
インダストリアル	1,108	9.2	165.4	933	11.5	157.9	175	4.4	221.5
クラフト	75	0.6	63.6	44	0.5	52.4	31	0.8	91.2
ジュエリー	148	1.2		50	0.6		98	2.5	
パッケージ	607	5.0	114.7	341	4.2	93.4	266	6.7	162.2
グラフィック	5,560	46.0	95.4	3,556	43.9	85.7	2,004	50.5	119.4
サイン	266	2.2		207	2.6		59	1.5	
ディスプレイ	548	4.5	188.3	395	4.9	183.7	153	3.9	201.3
インテリア	1,542	12.8	275.4	1,168	14.4	267.3	374	9.4	304.1
テキスタイル	703	5.8	142.6	354	4.4	144.5	349	8.8	140.7
ファッション	161	1.3	109.5	52	0.6	74.3	109	2.7	141.6
その他	1,077	8.9	180.1	781	9.6	203.4	296	7.5	138.3
デザインコンサルタント	279	2.3	178.8	225	2.8	169.2	54	1.4	234.8

注)複数の職種に従事している場合は、主たる職種により分類している。



国際刃物デザインコンペ '91 in SAKAI 入賞発表

平成3年11月、堺刃物商工業協同組合連合会及び堺刃物イメージアップ推進協議会が主催した「国際刃物デザインコンペ '91 in SAKAI」には、前年を大幅に上回る応募があり、総数280人、348点（前年度188人、244点）うち国内32都道府県から228人、285点、海外15ヶ国1地域から42人、63点を数えました。

平成4年1月、SADA事務局長の岡村さん、賛助会員・堺刃物商工業協同組合連合会理事長の滝川さんを含む8人の審査員により入選作品が決定され、2月8・9日にじばしん南大阪で開催された「第5回堺刃物まつり」で、表彰式と応募作品の展示会が行なわれました。

グランプリは町田正さん（長野県）デザインの『ブルースカイ』『ユー』（写真上）が獲得。金賞には『VEGETABLE KNIFE』TAMIR PORAT & HAGAI KARP (ISRAEL)さんと『コーナーカッターを備えたペーパーナイフ』森一さん（豊中市）の2点、その他優秀賞として5点（うち外国作品2点）の作品が受賞しました。

《暮らし・き・ら・め・き》をテーマに、生活に夢を与える独自のデザインが求められたコンペティションでしたが、加えて芸術性、刃物としての機能性、バランスの良さ、製品化が可能なことなどが重視されました。外国からの応募作品に新鮮なアイデアが数多く見られたのが特徴的だったということです。

川崎理事長に勲五等瑞宝章

平成4年4月29日付けの春の叙勲では、大阪府内から197人が選ばれましたが、その中から、当堺デザイン協会理事長の川崎浩さんが、10年前の藍綬褒章に引き続いて、勲五等瑞宝章を受けられました。長年にわたってインテリア産業の振興につくされた功績に対して贈られたもので、我々同じデザインの道を歩む者として、心からお喜び申し上げますとともに、長年の御苦勞をねぎらいたいと思います。おめでとうございます。

SADA見学会 フジカラーサービスを訪ねて

吉田 豪男

平成4年4月28日、SADA理事、上野あきら氏のご努力にて、フジカラーサービス大阪事業所（堺市七道・山崎篤治所長）の見学会が開催されました。始めに山崎所長より、フジカラーサービスの社会的な役割などについてお話をうかがったあと、総勢23人が2班に分かれ、アマチュア部門、プロコマーシャル部門の制作工程を見学。大きな写真にびっくりしたり、写真の2次工程に感動したりして、記念写真の撮影を行ない、従業員食堂での懇親会に移りました。質疑応答も活発に飛び出し、普段何気なく見ている写真の工程の複雑さに感心し、安堵し、和やかな見学研修会を終了しました。

《山崎所長談話》

私たちの身の回り、遊びに、仕事に、街にビジュアルがいつもあります。部屋のカレンダー、雑誌、チラシ、駅構内の電照ポスター、ビルの大型広告写真、旅行でのスナップ写真、成人式の記念写真、卒業写真、イベントでのディスプレイパネル等々、これら「眼に見えるもの」全てがフジカラーサービスの仕事の対象となります。

いかに美しく見せるか、どう効果的に表現するのか、環境とどのようにマッチさせていくのか…。「眼に見えるもの」を通じていかに社会に貢献していくのか。どう映像分野に寄与していくのか。フジカラーサービスの企業活動は、これらの問いに答えていくプロセスにあるといえます。

生活には楽しさと便利さを、社会へは経済性と環境との調和を、この願いを追い求め続けています。



PARIS REPORT

フランス高島屋SA 坂下 順二

12月に入ったパリは気温0度C~5度Cの寒い毎が続いていますが、街はクリスマス一色で熱気に包まれております。堺デザイン協会の皆様、永らく御無沙汰いたしておりますがお元気でしょうか。私のほうはパリに赴任いたしまして早1年3カ月経過し、すっかりこの街にも慣れ、仕事に生活に多忙な毎日を送っています。

つきましては1年を契機としまして、このパリからの産地直送のフレッシュなレポートをお届けしたいと思います。湾岸戦争からソビエトの解体、EC統合へと大きく揺れ動く欧州の流れを、デザインを切り口としてお伝えいたします。

現在、冬期オリンピック、ユーロデズニールランドのオープンとEC統合を控えて活発なイベント攻勢をかけ、ECにフランスの存在をアピールしているのですが、順風満帆に見えるこれらのイベントの裏で、数多くの大きな問題がフランスを覆っているのが現実です。

まず一番大きな問題は景気の失速です。

御存じのようにフランスは一応表面上だけでも社会主義国ですので、重厚長大産業のほとんどが国営であります。これらの凶体の大きい国営企業が敏感に景気の動向に反応する事は全く不可能でして、国全体に氷河期に弱い恐竜がたくさんいるといったありさまです。その上東欧からの流民、アラブからの難民の増加による失業問題がボディブローのように一日一日ダメージを大きくしていつているようです。

こういった経済の低迷する状況の中では当然、デザインというサービス産業自体も大きな影響を受けております。

インテリアデザインに関して見ても、フランスは一昔前中近東(アラブ)の市場に非常に力を入れていたため、商品、デザインともアラブ向けが業界の大きな柱となっていました。しかし近年の中東政情不安のため、一気にそれらの企業が倒産、転業したのです。

フランスのインテリアデザイン業界の現状はその混乱期の真っ只中で、イタリアのように新しいものを生み出す力強いパワーが無いのが現実です。

またそれに加えて社会主義自体が微妙にサービス産業に影響を与えている事も否定できません。これはデザインというサービス産業が自由主義社会の競争の原理(良いものを売る為の努力)に基づいているため、フランスの現状の政策と相容れないのではないかと推測されています。

ともかく新しいデザインということでは、これから先も、どんどんイタリアに水をあけられるであろうと思われます。

このような状況はファッション業界においても全く同じようであります。フォーブルサントノーレというパリで一番のブティック街もいまやイタリア資本の洪水で、今のフランスの状況をよく表しております。

しかしそういった悪い面ばかりではなく、フランスらしい良い面があることも事実です。一般的には排他的で色々な面でガードの固い国民性なのですが、こと文化、芸術に関しては非常に柔軟な考え方を持っており、外国の文化、芸術家を受け入れることについては、他の国に見られない懐の深さを持っています。例えば御存じのようにミッテラン大統領の主導で始められた、グランパリ計画の主要なプロジェクトに見られる外国人建築家、デザイナーの登用がその考え方を端的に表しているようです。たとえばオルセー美術館の建築及び内装はイタリアのガエ・アウレンティであり、ルーブル美術館中庭のピラミッドはアメリカ国籍の中国人イオン・ミン・ペイであり数え上げると枚挙にいとまがありません。

また一方ファッション関係においても、ウンガロ、バルダサリ、KENZO、ベルサーチ、アネマーニ等全くインテリアと同じ状況であります。

これらのことから創作、文化活動する人種にとってパリは大層恵まれた環境であると言えるようです。ともかく私もこの得難い状況をよく認識しながら仕事をしなければと考えているのですが、現実にはなかなか…?また今後再びレポートする機会がありましたらこの続編をお送りいたします。

最後に、来たる1992年が皆様にとって素晴らしい年となりますようにパリよりお祈り申し上げます。 25/DEC./91

SAKASHITA JUNJI

112 QUAI LOUIS BLERIOT
75016 PARIS FRANCE

「カーテンにこだわる研修会」参加報告

嶋田 公明

平成3年10月26日、27日は堺デザイン協会会員と有志計19名が長野県蓼科へカーテンの研修会に。これは大丸の山崎晶氏によって計画されたもので、スイスにあるクリエーション・パウマントというカーテン、カーベットのメーカーの日本社がその販売元であるシンコール株式会社の金沢本社と東京事務所の協力のもとで、「カーテンにこだわる研修会」と銘うって催され、まさに紅葉の真只中を1日目は「ロッジ・三井の森」で、2日目は宿泊地のLIWACO・GC・CHALET（リワコ・ジーシー・シャレー）で実施された。

1日目の26日は午前6時40分に堺東を専用バスで出発、新大阪で仲間を拾い一路蓼科へ、到着と同時にシンコール関川専務により、カーテンの歴史、カーテンの分類、糸の種類、日本のカーテンの現状、デザインの指向、カーテンの原料・着色、カーテンのデザインと息つく暇もなく、カーテン全般についての講義を夕刻まで拝聴した。終了後は「ロッジ 三井の森」に隣接する竜神池のもみじを觀賞しながら一周し、宿泊先のLIWACO・GC・CHALETに到着し、各室へ落ちついた。夜はこの萩原さん御夫妻自慢の手料理に舌づつみ、萩原さんの軽妙な会話に引き込まれながら立食パーティーが進む。当日の参加者同志の親睦を深め、気がつくとは外はすっかり闇に覆われていた。

翌日27日、樹林の中で目覚めた一行は、朝食後さっそくカーテンの勉強会、内容も前日と異なって、インテリアデザインとマーケティングそれにサービスと続き、カーテンに携わる人々の内部に至るまで垣間見る思いであった。

2日間を通して、カーテンのことですっかり満腹になった感じで、実務面ではどのようなかたちでこの2日間の勉強が生かされるか考えてみたい気になった。一番この2日間で驚いたことは、このメーカーの色彩の豊富さで、同じデザインでありながら100色近い色の表現が可能であると聞かされたときには舌を巻く思いであった。そしてこれがこのメーカーの特長ではなかるうか。特に微妙な色の使い分けをしたいときにはこのメーカーに限るとさえ思った。講義終了後は白樺



湖を經由し、諏訪市のエミール・ガレの作品で有名な諏訪北澤美術館に立寄り、アール・ヌーボーの世界に浸りながら一路堺へ向かった。次に、2日間勉強した内容を略記する。

・カーテンの歴史

16～17世紀注目されたフランスではルイ14世の頃、形が整えられたとみてよい。又一方イギリス植民地では窓に窓税（WINDOW TAX）が課されていた歴史もある。17世紀カテドラルのステンドグラスに布を掛けるようになったのがカーテンの始まりともいえる。日本に於いては鹿鳴館に使用されたものの、ほとんどが戦後から使用されだしたと考えてよい。しかし、こじつければ平安時代の几帳、竹すだれ、御簾もカーテンのルーツといえないこともない。

・カーテンの分類

ドレープカーテン、レースカーテン、ケースメント、その他のカーテンに遮光カーテン等がある。

・糸の種類

化学繊維にレーヨン、ナイロン、難燃ポリエステル、アセテート、アクリル、ポリエステル等

天然繊維に綿、麻、ウール、絹

・日本のカーテンの現状

もともとのカーテンメーカーは少なく、カーテン地そのものを作る例はまれでカーベットの屋、服地屋がカーテンに進出した例が多い。流通経路が複雑で原価は定価の2～3割という例もある。

・デザインの指向

フレンチスタイル、英国スタイル、バウハウススタイル、



デザインコンセプト—受信・発信のWave—
SAKAIの頭文字(S)と(Wave)電波をモチーフとし、情報が瞬時に宇宙をとびかうイメージとした。(Wave)はまた海の波の意味であり、堺が目指すウォーターフロント都市にも合致する。コーポレートカラーは海を表すBlueとし、フレッシュなイメージとともにダイナミックでヒューマンな意識を持ち続けたい企業の変革をデザインしている。

アメリカンカントリースタイルの4種類が主流。又、ヨーロッパの場合流通経路が単純で、メーカーから小売店又はコントラクターという例多し。又、車の例の如くグレードに対しては自分のフィールドを守っている。

・現在使用されているカーテンの原料

アクリル30% レーヨン30% ポリエステル30% その他コットン(又はポリエステルを加えたもの)ウール10%

・色の着け方

先染め、織りあがったものを染める後染めがある。

・デザインについて

織るタイプ、編むタイプ、プリントするタイプがある。パウマンの場合40年前から表裏が同じ柄を採用、染色も57色が常時可能、又その年のファッションの色の2年後カーテンの色として導入している。

・インテリアデザインとマーケティング、サービスについて

パウマン社は一方にクラシック、トラディショナルな潮流があるのに対してモダン、シンプルな模様を採用し、ハイクオリティ、耐久消費材と位置づけられている。又常時百万米の在庫を有し受注後5日以内に供給している。又サービスについては、明確な組織、豊富なサンプル(ハンガーサンプル プレゼンテーション用サンプル 30cm角サンプル ブックサンプル キューブサンプル等)優れた販売員、適確な販売促進計画、妥当な価格、単純な流通経路を心がけている。日本の法規制により、ポリエステル性のカーテンが使用できない問題などもあるが、インテリアに於いて、知的文化度を高める作業と認識し、カーテン文化の向上に努めている。



堺ケーブルテレビ株式会社のロゴ・マーク

平成4年4月、堺ケーブルテレビ株式会社より堺デザイン協会へロゴ・マーク製作の話があり、取扱について協議の上、個人としてSADA会員、桑原正嗣、森和雄、岡村筈の3氏がプロジェクトを編成し参画しました。これはSADA賛助会員、堺商工会議所の鈴木部長のご紹介によるもので、地元資本と情報都市堺の将来を考慮し、ぜひ堺の方に依頼したいというテレビ会社の意向を受けて取り組んだものです。

堺ケーブルテレビ(株)は多チャンネル機能(50~60ch.)を活用した高度情報化時代のTVで、放送局と各家庭を有線で結び、鮮明で安定した映像と音声による、世界のニュース、スポーツ、文化などの専門チャンネル、BS放送、現行TV局の放送などが一元的に見られる他、相互通信を含む自主ローカル放送の製作などを目指しています。平成5年秋開局の予定。

《解説》

CATV(Cable Television)の発祥地は、アメリカのペンシルバニア。難視聴対策用として、1948年に同軸ケーブルを使って普通のテレビ放送波(空中波)の再放送を始めたのが最初。現在、全米8,400万のテレビ保有世帯のうち、約40%がCATVに加入、日本でも約400万世帯が加入している。

同軸ケーブルで約50ch.、光ケーブルだと100ch.以上のテレビを送ることができ、空中波に比べて、選択の幅がぐっと広がることになる。アメリカでは、市議会の中継、地元ハイスクールのバスケットボール試合、ポルノ、映画、24時間ニュース、24時間天気予報などと、番組も多様化している。

またCATVは、視聴者の側から放送局に情報を流すこともできる。これが(双方向CATV)で、双方向というところがニューメディアたる所以。切符やレストランの予約、世論調査、カタログショッピングもでき、データ検索、ホームバンキング、ホームセキュリティー・システム、過疎地の遠隔医療といったことも可能になってくる。

双方向CATVは、通信としての自由な使い方をするには、新たな電気通信事業法などが制定されることが必要で、新しい事業のあり方がこれから検討されることになる。CATVのバラ色の未来には、解決すべき問題が山積されている。

クリスト／アンブレラ展

—昨年10月茨城県で57万人を集める—

桑原 正嗣

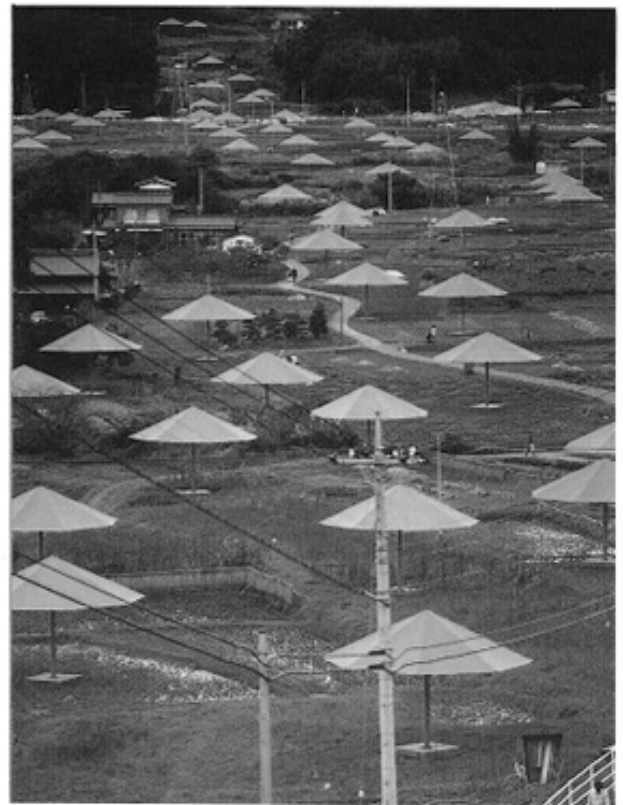
常磐自動車道を、水戸と日立の間にある那珂ICで降りる。10月26日（土）、小雨のち曇、暖かい。東京に住む好奇心旺盛な知人をそそのかして、午前9時30分、都内を車で出発。幕張の“東京モーターショー”当日にぶつかり、思いがけない渋滞に巻き込まれたあげく、2時近くになって、目指す世紀のイベント《クリスト・アンブレラ展》の会場がやっと射程距離に入ってきた。

常陸太田市の町並を抜けると、急に視界がひらけ、山あいの田園風景の中にポツポツと立ち並ぶ巨大な“アンブレラ”が見えはじめて、会場への到着を告げる。ここから、国道349号線に沿った19キロメートルにおよぶ地帯が、1340本の「傘のお化け」状の造形物（高さ6m・直径8.7m・八角形）が棲息する環境芸術の展示会場なのだ。

里川流域の平和で静かな秋景色がひろがるうち、河の流れの中に、小高い丘の上に、古い墓標の横に、なつかしい農家の裏に、焚火煙る苧田の面に、ある時は点々と、ある時は蜿蜒と、ある時は密集して、アンブレラは囲りの情景に屹然と対峙したり、また、素直に融和したりしながら続いていく。

車から降りて、傘の下で写真を撮る若いカップル、河原で弁当をひろげる子供づれの家族、丘にあがって村を眺める熟年夫婦、軒先に野菜やキノコを並べて待つ家々…。想像していたのと違って、クリスト氏が意図していたかも知れない造形物と自然と人とのやさしくて、親しみのある「夢と現実の調和」の世界がそこにあった。

日本だけで57万人を越える観客を動員したこのプロジェクトについて、クリスト氏はその企画意図を「日本とアメリカの2つの内陸部の谷における生活様式、季節の色彩、光の類似と相違を反映させようとするものだ。」と語ったそうだが、見方によっては「壮大なバカバカしさ」と映りかねない3週間足らずの環境芸術実現のために、5年近い準備期間と、



2600万ドル（約34億円）の費用、官民多数の協同作業が必要とされたのである。

アメリカ側では、ロサンゼルス近くの砂漠地帯に、29kmにわたって黄色のアンブレラが立てられた。交渉の対象となったその区間の地権者はわずか26人。日本側19km間の地権者の数は450人におよんだといわれることから、両国のスケールの違いが読み取れる。

当初計画された会期は、10月8日～29日であったが、初日、日本は雨。「アンブレラを開く行為は、美しく輝かしいものでなければならない。」というクリスト氏の考えに合わず、1日延期された。さらに会期の終り近くに、アメリカで不幸な事故が起こる。突風にあおられた傘が観客の女性を直撃、死者が出たのである。クリスト氏は「追悼のために、日米すべての傘を閉じる。」と27日に閉会を宣言したが、その後の撤収作業中、日本側でも、作業員の1人が高圧線に触れて感電死するという事件が発生している。

《クリスト・アンブレラ展》は、予期せぬ出来事によって幕



を閉じたとはいえ、利益至上の効率主義にあえぐ私達に、東の間の大きな夢を見せてくれた。同じ“傘”といっても、ロートレア蒙の〈マルドロールの歌〉の1節「こうもり傘とミシンが解剖台の上で出会う」によってイメージされる、シュルレアリスムの非日常美の光景と異なり、クリスト氏のそれは、「日常と非日常が共棲し、昇華する」、いうなれば、もっと“懐の深い”情景を醸し出しているように感じられたのである。

マイアミの島々や、パリの歴史ある橋をさえも、見事に梱包してしまった彼のことが。きっと数年後には、地球のどこかで、つぎの“Earth Work”を花咲かせて、人々に新鮮な驚きと喜びを与えてくれるものと、心待ちにしている。

(1991.11.20)



《クリスト・アンブレラ展》

- 正式名称：「アンブレラ——日本とアメリカ合衆国のためのジョイント・プロジェクト」
- 開催時期：1991年10月9日～27日
(19日間のうち開場は15日間)
(当初計画 10月8日～29日)
- 会場：日本——茨城県北部の国道349号線19kmに沿う、常陸太田市・日立市・里美村の地内
アメリカ——カリフォルニア州のハイウェイ5号線29kmに沿う、ロサンゼルス郡・カーン郡の地内
- 展示物：高さ6m、直径8.7m、八角形の傘状の造形物
日本——青色・1340本 アメリカ——黄色・1760本
- 企画意図：「両国の2つの内陸部の谷における生活様式、季節の色彩と光の類似点及び相違点を反映させようとするもの。」
- 総費用：2600万ドル(約34億円) ※寄付やスポンサードなし。クリスト氏の作品売却収益による
- 観客数：57万人(日本)
- 協力：茨城県・日立市・常陸太田市・里美村・(財)グリーンふるさと振興機構
(9月14日～11月24日、水戸美術館で<クリスト展>が開催され、ヴァレーカーテンの全貌とアンブレラ・プロジェクトのためのドローイングなどを展示)

《クリスト氏と彼のプロジェクト》

◆クリスト・ヤバシェフ氏のプロフィール

1935年ブルガリアのガプロヴァ生まれ。パリで本格的な芸術活動を行う。1964年、ニューヨークに移住し米国に帰化。初期には、身の回りのものを梱包したり縛ったりした作品の制作をしていたが、後に、ビルや橋や岩などを対象にし、“梱包の芸術家”として世界的な名声を得るに至った。

◆主なプロジェクトと観客動員数

- ・<ヴァレー・カーテン> 1972年——40万人
コロラド州の狭い谷にカーテンを張りめぐらす。
- ・<ランニング・フェンス> 1976年——70万人
カリフォルニア州で、全長40kmにわたり、高さ5mのカーテン状フェンスを張りめぐらす。
- ・<囲まれた島々> 1983年——100万人
フロリダ州マイアミ・ビスケーン湾の11の島の周りをピンク色の布で囲む。
- ・<梱包されたボン・ヌフ> 1985年——300万人
セーヌ河にかかるパリ最古の橋“ボンヌ・ヌフ”を布で覆う。

(今回のレポート作成あたり、茨城県企画部県北振興課と常陸太田市企画部に資料と情報の提供をお願いしました。)

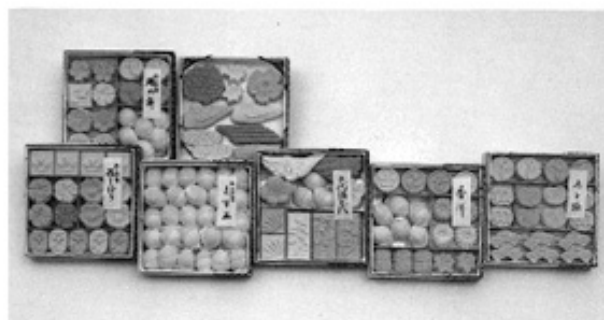
 企業が創る

ばいこう堂 株式会社

代表取締役 黒川 眞男

都会では人間らしさが失われてきたと言われるこの頃ですが、ごく最近、又、少しずつではありますが、心の豊かさを求める傾向になってきました。個性やしき、グルメと温泉など、ややもすると自己中心で義務感そのけなところはさておいて、本物志向、旨いもの探し、心のふれあいが要求されるようになったのは、大変うれしいことです。

「ばいこう堂株式会社」は讃岐特産の純日本産白砂糖「さぬき和三宝」を、原料づくりから製法まで、伝統の業そのままに製造している会社です。全国老舗の和菓子屋さんのお菓子には、いろいろの形でお使いいただいております。さぬき和三宝にしかない旨味や香り、口ほどけのよさは独特のもので、素材のよさをひき出す働きがあります。



私達日本人が昔から持っている伝統、その中にある心の通いあい、それは人間のやさしさそのもので、我々伝統企業の担い手として、決して一方通行のサービスであってはならないと思っています。

本年6月に本社社屋が竣工しました。機会があればご来社ください。お待ちしております。

 ズームアップ

堺の日曜日

岡本 安吉

堺にも昔ながらの露天の八百屋がまだ健在である。

私は仕事を寺地町西に移して、もう10年ほどになるが、その八百屋は仕事のすぐ横で、それ以前からやっていたそう。60歳ほどになるその人は、戦前戦後をしたたかに生きてきたと思われる風貌の、いかにも気のいい親父だ。塩乾



物、季節の果物、スーパーにはあまり顔の出さないような土つきの、かさばる野菜なども道路に並べている。いずれも安く、まけてくれる。

夏の蒸し暑い時も、冬のみぞれのふる時も、ほとんど毎日天候の具合を気にしながら、濃紺の前掛けからつり銭を数えて、通る客に声をかけている。

昨今、スーパーやコンビニなど言葉を交わさない買物が主流のようだが、私は仕事の帰りなど、ひょいとのぞいて声をかけると、愛想よく相づちをうってくれる。

堺にもこのような青物をあつかう人達と、毎朝、戎島で開いている鮮魚物や、刃物、食器類、草花、線香などの業者を一同に、市内のメインストリートで日曜日などを開いてみてはどうだろうか、市内は幸い歩道の幅が広いし、高知、高山、今治などになれば、観光の一役をになうことにもなると思う。チンチン電車と日曜市の風景が似合うような気がする。

堺・今・昔

大道筋

老 健一

万葉の頃浪速から紀伊へ行く海沿いの道があり、これを“岸辺の道”と言ったとか。現在の大道筋であります。その頃宿院辺りは海だったと聴いています。文久3年(1863)の堺の地図には、大阪の住吉から南へ紀州街道が大和川を渡って延び、大小路と直交する広い道になっています。現在の堺の町



文久三年(1863)の堺一市制100周年記念誌「フェニックス堺」より

名がそのまま載せられています。この大道筋には堺の歴史を語る資料がいくつもあります。安土桃山時代の1550年(天文19)、宣教師ザビエルは豪商、日比野了慶の屋敷を教会として、布教を始めています。今ザビエル公園として市民の憩いの場所であります。秀吉の武将であった小西行長の屋敷跡も大道筋にあります。信長・秀吉の茶の師として重用された千利久の屋敷跡、歌人と謝野晶子の生家の跡も宿院の駅近くにあります。駅といえばこの大道筋に、1910年、阪堺電気軌道社が電車を走らせ、チンチン電車のお愛称で親しまれ、沿線の史跡巡りに役立っています。綾之町駅の近くに旧鉄砲鍛冶屋敷、妙国寺駅の東には幕末の慶応4年、フランス兵と堺警護の土佐藩士の紛争から切腹した11人の士の墓がある妙国寺、御陵前駅には自由都市堺の名残りの土居川…大阪夏の陣の兵火を受け、今度の大戦でも全焼した堺ですが、戦後50米の大道になって新しい堺の復活に役立っています。これからの21世紀に、どんなモニュメントをこの大道筋に打ち建てることでしょう。

Eースポット

日本料理
吉 忠

山崎 晶

南海本線堺駅の近く、栄橋町の一角に、ひとかたまりの飲食街がある。サラリーマンの憩いの場として賑わっているようだが、その中にさりげなく佇む一軒のお店がある。注意して歩かないとつい見落としてしまいそうな店構えだが、うまく中へ入ると、このお店の凄さがわかる。

店主十代忠義さんは、背丈6尺の巨漢である(失礼!)。いつもカウンターの中において、店の方からは彼のこの大きさはわからないのだが、これには仕掛けがある。カウンターの中の床が一段深く掘り下げられているせいで、これは主人の視線が客に対して失礼にならないように下げられているのだ。

この温かい気配りが、インテリアデザインに見事に解決されていると言ったら、十代さんは優しい笑顔で照れた。

この体格で学生時代は野球で腕を振った。今はバットを包丁に変えて、料理でクリーンヒットを飛ばす。客は飲物の何かを決めるだけで、料理は任せ。季節のネタ、その素材を生かし、その時の客に合わせた馳走を供する。



鯉・鮪・鮮、けんは大根・胡瓜・かぼちゃ

客を見るに敏にしている。その心配りには全く頭が下がる思い。料理の出るタイミングがまた絶妙。控え目な奥さんにファンが多い。可愛い娘さんが元気よく帰ってくる。

人生に大切なものはバランスだと、つくづく思う。

■堺市栄橋町1-1-16 TEL.0722-23-6920



新年会で挨拶される川崎理事長
右から2人目は河野住職

SADA 新年懇親会報告

平成4年1月31日、恒例の新年懇親会を堺市九間町にある与謝野晶子ゆかりの覚応寺で開催しました。当日は小雨降る寒い天候にもかかわらず、ご来賓、賛助会員も多数出席され、総員45名の参加となりました。ゲストとして覚応寺住職河野氏をお迎えし、覚応寺先代住職河野鉄南氏の若き日、晶子とのひそかなロマンス、少年時代の鉄幹の話や、堺を舞台とした文芸活動など興味深いエピソードの数々をお聞きしました。また、賛助会員信田藤次氏より晶子の歌にちなんだ当時の「美しい堺の街並」の話もいただき、改めて「堺に無限の愛着」を感じつつ楽しいひと時を過ごしました。“その子たちは、櫛にながるるくろかみの、おごりの春のうつくしきかな”覚応寺にある晶子歌碑が、今年1年SADAの発展と各会員の活躍を示唆しているようでした。(高木 外)

会員ニュース

■新会員をお迎えしました。

- 伊藤浩平さん(インテリア) / 堺市今池町3-5-8
 岡本哲伸さん(彫刻) / 大阪市鶴見区今津南3-1-8-317 / 鶴白石彫刻研究所
 貴志宗江さん(茶・華道) / 堺市上野芝町1-19-3
 清水孝二さん(広告宣伝) / 泉市万町1093-22 / 鶴シマノ
 中野匡さん(インテリア) / 堺市日置荘北町48-8 / ナカノ
 インテリアデザイン事務所
 中村拓哉さん(グラフィック) / 堺市神石市之町28-6 / オ
 カムラデザインプロ
 渚松三さん(グラフィック) / 高石市取石2-39-27 / オカ
 ムラデザインプロ
 村上富美さん(茶・華道) / 堺市津久野町1-14-6-306

■勤務先等変更

- 森和雄さん / 平成3年6月ミノルクカメラ株式会社を退社されました。平成4年4月より株式会社リオス設計事務所にお勤めになります。学生時代に取り憑かれた山の魅力が忘れられず、これからは造園の設計に専念される由。ご健闘を祈ります。

- 山崎晶さん / 平成4年3月末に株式会社大丸を退社、4月より武庫川女子大学に勤務されています。これからは若い人達と一緒に、真面目にインテリアデザインを研究するつもり、とのことですが…乞うご期待。

■賛助会員社名変更

- アルスコポーレーション株式会社<旧社名:アルス刃物製造株式会社>
 ●株式会社クボタ<旧社名:久保田鉄工株式会社>
 ●ばいこう堂株式会社<旧社名:株式会社黒川梅行商店>

表紙の周辺

鎌はビクトグラムサインの分類では鍛冶屋を表す。仁徳陵造りに由来する野鍛冶の伝統に、自由自治都市・堺の気風がさまざまな文化・技術を取り入れて生み出したものが堺の包丁といわれる。室町時代には鉄砲の筒を鍛接する技術、安土桃山時代には舶来のタバコ専用包丁を国産化し、日本の料理包丁の根幹を作り出した。人の生活に欠かせない包丁を作り出す堺鍛冶の技術が、また新しい文化を作り出す道を切り拓くに鎌の形は相応しい。(今回は堺刀司のブランドを持つ和泉利器製作所様の玄関先を拝借いたしました。)

編集後記

1年2回の発行では、ニュース性を発揮するのは困難です。ましてこう毎回遅れがちの不定期発行ではなおさらです。誠に申し訳なく深くお詫びばかりの編集子ですが、会報SADAの基本的な編集ポリシーは11号に書きましたように、①会員の相互理解と情報交換②SADA周囲の方々に堺のデザイン事情を伝えること③SADA周囲のデザイン事情を会員に伝えること、であろうかと考えています。次号では、①を重点目標に編集してみるつもりです。ご協力お願い致します。(山崎)

会報 SADA 13号
平成4年7月31日

発行 堺デザイン協会

〒590 堺市向陽町1-1-7 オカムラデザインプロ内 TEL.0722-29-5011

編集 堺デザイン協会広報委員会